

伊勢物語

あくたがは
芥川

昔、男ありけり。女のえ得まじかりけるを、年を経てよばひわたりけるを、からうじて盗み出でて、いと暗きに來けり。芥川といふ川を率て行きければ、草の上に置きたりける露を、「かれは何ぞ。」となむ男に問ひける。行く先も多く、夜も更けにければ、鬼ある所とも知らで、神さへいといみじう鳴り、雨もいたう降りければ、あばらなる蔵に、女をば奥に押し入れて、男、弓・

10

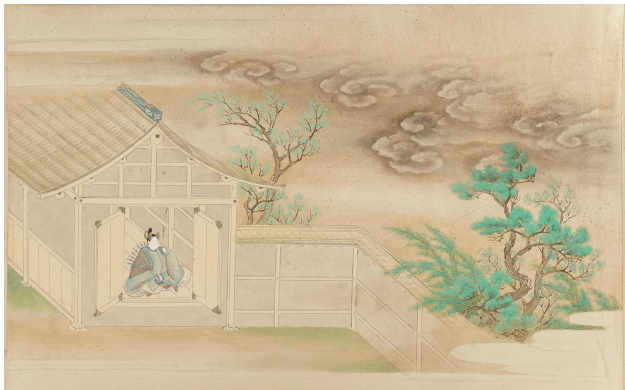


4 胡籬を負ひて戸口にをり、はや夜も明けなむと思ひつつゐたりけるに、鬼はや一口に食ひてけり。「あなや。」と言ひけれど、神鳴る騒ぎにえ聞かざりけり。やうやう夜も明けゆくに、見れば率て來し女もなし。足ずりをして泣けどもかひなし。

6 白玉か何ぞと人の問ひし時

7 露と答へて消えなましものを

10



『伊勢物語繪卷』(国立文化財機構所蔵品統合検索システム https://colbase.nich.go.jp/collection_items/tnm/A-12341?locale=ja)



1 よばひわたりけるを 求婚し続けていたが。

2 芥川 所在不明。一説に現在の大阪府高槻市にある川。

問1 「率て」とは、誰が誰を「率」たのか。

3 神 ここでは、雷のこと。

4 胡籬 矢を入れて背負う道具。



5 足ずりをして じだんだを踏んで。

6 白玉 真珠。

7 消えなましものを 消えてしまえばよかつたのに。「消え」は「露」の縁語。